

令和5年度「アーティスト移住・定住促進業務」

活動統括報告書(抜粋)

一般社団法人 葛力創造舎

2024年3月31日

目次

- 1 はじめに
Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について
- 2 委託業務の概要
- 3 2025年までの計画について
- 4 23年度事業成果
 - (1)アーティストインレジデンス事業について
 - (2)アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備について
 - (3)活動拠点整備について
 - (4)事業の周知、広報活動について
 - (5)移住・定住に向けた支援について
 - (6)関係人口リストの作成について
- 5 運営における成果および課題

1 はじめに

本報告書は、2023年度に福島県双葉郡葛尾村で実施したアーティスト・移住定住事業の活動をまとめたものです。2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う津波により、福島第一原子力発電所で発生した原子力事故の影響により、葛尾村の全村民は村外に避難を余儀なくされました。2016年6月に帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、2022年6月には特定復興再生拠点区域の避難指示が解除になりました。東日本大震災による原発事故の影響は村の人々の生活を大きく変えました。12年経った現在もその余波は大きく、村に戻ることができない人々も多く存在しています。一方で、多くの研究者や若者が引き寄せられるようにこの地に集まってきています。

本事業では、アーティストやクリエイターの地域での活動をサポートすることを通じて、村に眠る資源や魅力を発掘します。「Katsurao AIR」(アーティストインレジデンス事業)では、地域にアーティスト・クリエイターを受け入れ、彼らの視点から地域の魅力の発掘と調査、PRを行いました。

「かつらお企画室」(ワークショップ事業)では、継続的なワークショップの開催を通じ、移住定住に向けて地域の魅力に触れる機会を創出するとともに、村内外の人材の交流の場を作り出しました。ほかにもアーティスト・クリエイターと一緒に活動できるスタジオ整備、コワーキングスペース運営など、さまざまな企画・取り組みを通じ、地域へのアーリーアダプターとしてアーティスト・クリエイターを地域へ招聘することで、“自分らしい生き方”を求める移住希望者へ向けたPRを行い、創造力を基点にした地域コミュニティの創出、移住者の増加、関係人口の増加をめざします。

本報告書の作成にあたり、本事業に参加いただいたアーティスト、クリエイターの皆様、事業運営にご協力いただいた全ての皆様に、心よりお礼申し上げます。

事業統括 森健太郎

Katsurao Collective(カツラオコレクティブ)名称の利用について

現代アートが社会での実践を展開し、アートと社会との接点が深まる現代において、“アーティスト・コレクティブ”(*)の存在はますます重要になってきています。コレクティブという枠組みは、アート活動を個人主義的な創作活動の枠から解き放ち、より多様でフレキシブルなアートの形を社会へと提示します。多様な価値観を持ちながら、創造性という価値でつながり一緒に活動を始める。Katsurao Collectiveは、この地でそのようなコレクティブとなることを目指すプロジェクト名であり、創造性という価値でつながる共同体の名前として設定しました。アーティスト・クリエイターへの本事業のPRのイメージ戦略として、本事業を紹介する際の名称として使用しました。

※共通の目標を達成するために活動するアーティストによって形成された集団

2 委託業務の概要

地域の魅力を最大化できるアーティストなどが本村に移住し、村民との協働の中で制作活動を行うことができるようにするため、以下の支援を行う。

(1) アーティスト・イン・レジデンス事業

- ア 「葛尾らしい」地域資源を発掘・提供し、その魅力を発信してくれるアーティスト・クリエイターを呼び込む（年間8組以上）
- イ 呼び込んだアーティストが村内で活動した内容を発表するイベントを企画・運営する（村内、首都圏各1回以上）
- ウ 村の地域資源を活用した作品制作を支援する（4作品以上）

(2) アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備

- ア 県外のアーティスト・クリエイターが村に愛着を持ち、移住につなげるための活動拠点の整備・運用を行う（コワーキングスペース、テレワークスペース、アーカイブスペース、交流スペース等）。
- イ 村外のアーティストが地域資源を活用し、地域住民と関係性を深められるワークショップ開催を支援する（10回以上）。
- ウ 村の資源を活用したワークショップを県外で1回実施する。
- エ アーティスト・クリエイターを自主的・主体的に受け入れる村内体制強化を支援する。
- オ 村での宿泊・滞在場所、住民等との取次ぎ等の活動を支援する。

(3) 事業の周知、広報活動

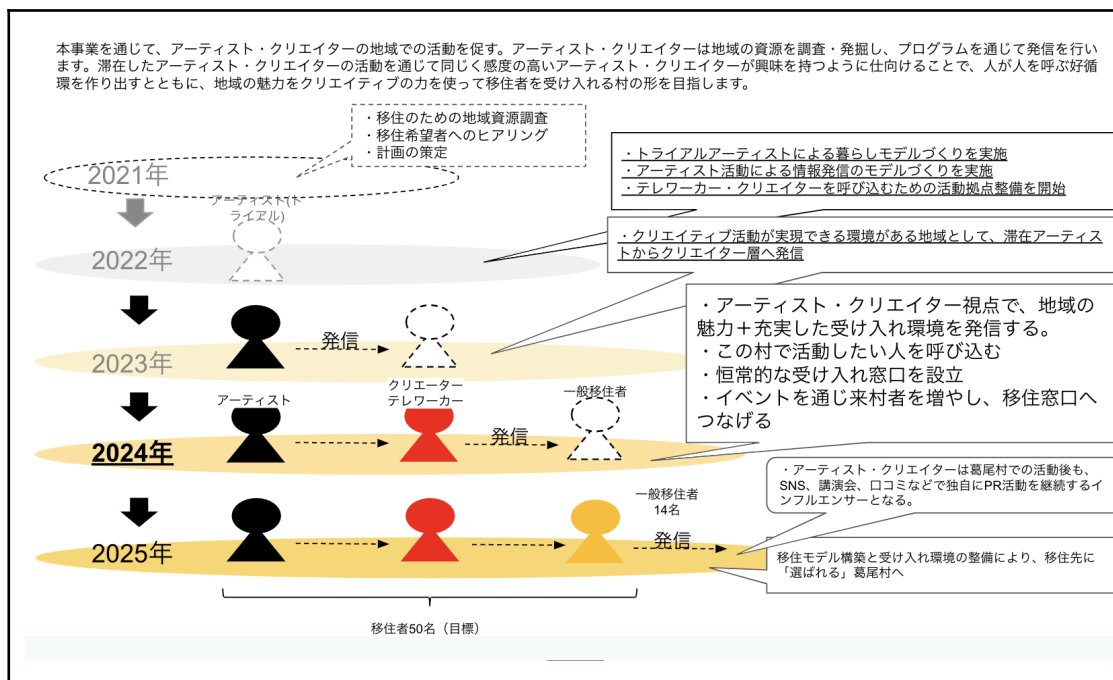
- ア 村及び本事業を村外に周知するためのチラシやパンフレット等を作成し、配布する。
- イ 本事業専用のSNSを管理、運営及び記事の作成、投稿を行う。
- ウ SNSのデータ解析を行い、課題を可視化し、その結果に基づき、記事内容やSNS発信方法について改善を行い、SNSのリーチ等の増加を図る。

(4) 移住・定住に向けた支援

- ア 移住や訪問を希望するアーティスト・クリエイターへのヒアリング及びマッチング等の支援を行う。
- イ 村に興味を持ったアーティスト等に対して移住等に関する調査を行う。
- ウ 葛尾村移住・定住支援センターで実施した調査結果も併せて集計し、結果の総合的分析を行いつつ、リスト化（関係人口リスト）し、地域の課題を整理する。また、村に興味がある人を着実に移住に繋げるため、個人が持つ不安等を見える化し、不安解消を図るよう努める。

3 2025年までの計画について

5カ年を通じて計画的に実施し成果を取得していく。昨年度は環境の整備を実施、本年度はアーティスト・クリエイターへの周知を行う。24年度より一般の利用者への発信を強化していく予定である。



4 2023年度実施事業成果

(1)アーティスト・イン・レジデンス事業	
ア 「葛尾らしい」地域資源を発掘・提供し、その魅力を発信してくれるアーティスト・クリエイターを呼び込む(年間8組以上)	10名
イ 呼び込んだアーティストが村内で活動した内容を発表するイベントを企画・運営する(村内、首都圏各1回以上)	村内14回、都内1回実施
ウ 村の地域資源を活用した作品制作を支援する(4作品以上)	10作品(7名)
(2) アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備	
ア 県外のアーティスト・クリエイターが村に愛着を持ち、移住につながるための活動拠点の整備・運用を行う(コワーキングスペース、テレワークスペース、アーカイブスペース、交流スペース等)。	・活動拠点利用:累計464名利用 ・かつらお企画室:累計181名利用
イ 村外のアーティストが地域資源を活用し、地域住民と関係性を深められるワークショップ開催を支援する(10回以上)。	14回実施
ウ 村の資源を活用したワークショップを県外で1回実施する。	2回実施
エ アーティスト・クリエイターを自主的・主体的に受け入れる村内体制強化を支援する。	せせらぎ荘、あぜりあ、役場、学校ほか村内施設と連携しての事業を実施
オ 村での宿泊・滞在場所、住民等との取次ぎ等の活動を支援する。	随時実施 ※詳細は後述
(3)事業の周知、広報活動	
ア 村及び本事業を村外に周知するためのチラシやパンフレット等を作成し、配布する。	・チラシ配布数: <u>10249</u> 件

イ 本事業専用のSNSを管理、運営及び記事の作成、投稿を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebookのリーチ数:35032件 ・Facebookのインプレッション数:42692件 ・Instagramリーチ数:6730件 ・X(Twitter)インプレッション数:24986件
(4)移住・定住に向けた支援	
ア 移住や訪問を希望するアーティスト・クリエイターへのヒアリング及びマッチング等の支援を行う。	79名の対応を実施
イ 村に興味を持ったアーティスト等に対して移住等に関する調査を行う。	アンケートを取得し分析を行う
ウ 葛尾村移住・定住支援センターで実施した調査結果も併せて集計し、結果の総合的分析を行いつつ、リスト化(関係人口リスト)し、地域の課題を整理する。また、村に興味がある人を着実に移住に繋げるため、個人が持つ不安等を見える化し、不安解消を図るよう努める。	188人の関係人口を整理、(取り組みに関心のある人数の総数:688人) ※詳細は後述

その他成果数値

<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト・イン・レジデンス事業 累計来場者 10326名 ・かつらお企画室事業 累計来場者 816名 ・コワーキングスペース 累計利用者 464名 ・かつらお企画室(スペース) 累計利用者 181名 ・制作スタジオ利用アーティスト数 9名 ・コミッションワーク作家(村内に作品を残した作家)数 8名 <p>【関係人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じて、188人の関係人口を作り出した。(取り組みに関心のある人数の総数:688人) <p>広報掲載の実績</p> <p>メディア掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島民友(4/30)、福島民報(4/30) ・NHK福島放送局「はまなかあいつTODAY」(6/30・テレビ) ・河北新報 (7/31)、福島民友(11/22)、福島民報(11/22) ・福島民報(11/26)、日本経済新聞(12/2)

- ・KFB福島放送「ふるさとシェア」(1/18・テレビ)
- ・NHK福島放送局「ココに福ありfMAP」(1/19・テレビ)

Webサイト掲載

- ・葛尾村移住定住ポータルサイト「こんにちはかつらお」
- ・観光情報サイト「ふくしまの旅」
- ・AIR_J
- ・ふくしま12市町村ポータルサイト「未来ワークふくしま」
- ・中之条ビエンナーレWebサイト

冊子掲載

- ・せんだいメディアテーク「Journal」特集記事
- ・「まいにちの舞台」一家劇場から見た風景

広報活動

- ・東北移住&つながり大相談会(東京交通会館)(2回)
- ・JOIN 移住・交流&地域おこしフェア2024
- ・ハマカルアートプロジェクト
- ・Tohoku Creative Meeting
- ・FURUSATO(フルサト)移住セミナー
- ・ふくらボ！福島のクチコミナビ

報告書冊子収蔵

- ・女子美術大学 相模原図書館
 - ・東京都写真美術館 図書室
- ほか、全国各地のイベント等にて配布

(1)アーティスト・イン・レジデンス事業について

- ・AIRプログラム参加者数、22年度:6名 →23年度:10名
- ・AIRプログラム以外でスタジオ利用などで滞在したアーティスト:13名
- ・イベント来場者数、22年度:4105名 →23年度:10326名

・アーティストインレジデンス事業では年間を通じてアーティスト・クリエイターを地域に呼び込み、地域での活動を行った


・外部への発信としてAIR-J(アーティストインレジデンス事業者の情報まとめサイト)や福島12市町村センターへの記事掲載の依頼、せんだいメディアテークでの記事掲載など、幅広い媒体での発信を行った。




・AIR参加者の募集には、6名の採用予定に対して日本全国から14名から応募があった。(うち採択は7名、招聘3名)





・Katsurao AIRの滞在プログラムを通じて制作された作品は、復興交流館あぜりあにて11月から3月まで展示を行った。村内での事業の認知度を向上させることで、村民の受け入れ体制の強化に努めた。

・若年層の移住候補者向けの取り組みとして、学生の滞在を試験的に実施。2月に佐賀大学より7名が滞在した。滞在初日には教授3名によるオンライントークイベントが実施された。

滞在アーティスト及び活動内容

滞在期間 (参加形態)	作家名	調査・活動内容	写真
7月 (公募)	喜多村徹雄	<p>春に伐採された間伐材から12年前の年輪の特定を行うことで「緩やかな接続と間隙」の起点を視覚化する試みを行った。</p> <p>中学校の校庭に、葛尾村の木材を使用し、木とともに成長する交流拠点となるテーブルを制作した。</p>	

<p>7月 (公募)</p>	<p>小鷹拓郎</p>	<p>作家は、世界各地の制作プログラムに参加して発信を行っている。俳優の仲間由紀恵氏が言及したことで日本中で話題になるなど、<u>発信力の高い作家として採択した。</u></p> <p>100年前に開発された放射能を可視化する装置「霧箱」にまつわる一時間のドキュメンタリー映画を制作。葛尾村の住民や、物理学者、原子核理学の研究者などが出演。滞在期間終了後も、継続的な関わりを希望している。</p>	
<p>7月 (公募)</p>	<p>三本木敏</p>	<p>葛尾村の地理的配置、空間、行政区域についてリサーチを行う。集会所の構造、使い方、人と建物とも関わりに着目。</p> <p><u>全集落の区長とともに映像を撮影し、各地区の集会所の調査を実施。調査をもとにした作品の発表をゲートボール場にて行った</u></p>	
<p>7月 (公募)</p>	<p>鈴木光</p>	<p><u>アート業界への発信力の高い作家として採択。</u>これまで長年にわたって被災地をモチーフにした映像を撮影しており、葛尾村での調査、撮影を希望していたため、受け入れを行った。</p> <p>短期の滞在ではあったが、想定の通り、<u>作家自身のSNSなどを用いて地域の発信、知名度の向上に寄与した。</u></p>	

<p>11月 (公募)</p>	<p>カルティカ・メノン</p>	<p>食をメディアにした交流事業、異文化交流を実施。空き家の調査、あぜりあでの「カルチャイ会(チャイを振る舞うイベント)」を企画。</p> <p><u>滞在期間中は復興交流館あぜりあで継続してイベントを実施。村民と移住者(クリエイター)の交流を生み出した。</u></p>	
<p>11月 (公募)</p>	<p>村上郁</p>	<p>折り紙を用いた作品制作を企画。村民から教わった折り紙細工をアート作品として再構成。</p> <p><u>制作した作品は、継続し村で展示をするため制作を継続。移住者に向けたPRコンテンツとして活用することを想定。</u></p>	
<p>11月 (公募)</p>	<p>大槻唯我</p>	<p>写真作品を制作。自らの足で村中を歩きながら写真の撮影を行う。</p>	
<p>ロングターム</p>	<p>榎本浩子</p>	<p>村民の庭や農場などから譲り受けた植物や、集めたエピソードからドローイングを制作し活動報告会で発表を行った。</p> <p>期間中は村民宅を訪問しお話を聞きながら作品制作を実施。本プログラムの村民への周知に大きく寄与した。</p>	

ロングターム	杉浦藍	<p>労働をテーマにした作品制作を行う。村民の家を周り、話を聞きながら地域の特徴を探索した。</p> <p><u>制作した作品は、継続し村で展示をする。移住者に向けたPRコンテンツとして活用することを想定。</u></p>	
ロングターム	阿部浩之	<p>葛尾が風の強い地域であることから「風」をテーマに制作を行う。</p> <p>活動を通じて、大学生など若年層の移住希望者を呼び込むプロジェクトを実施できないか提案。</p>	

コミッションワークとして制作した作品

作家名	内容
尾角典子 (2点)	<ul style="list-style-type: none"> ・葛尾村をモチーフとしたVR作品 ・電気をテーマに制作された平面作品
太田裕司 (2点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールドかつらおをモチーフとした映像作品 ・電飾を使用した光る立体作品
山田悠 (2点)	<ul style="list-style-type: none"> ・日時計をモチーフとした立体作品 ・日時計をテーマにした写真作品
工藤将亮	<ul style="list-style-type: none"> ・葛尾村をモチーフとした短編映画作品
喜多村徹雄	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブル型の立体作品
杉浦藍	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りをテーマに制作した平面作品
石川洋樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング
Yoriko	<ul style="list-style-type: none"> ・あぜりあトレーラーハウスへの壁画

地域に滞在し活動したアーティスト

尾角典子
太田裕司
山田悠
工藤将亮
石川洋樹
Yoriko
佐賀大学学生(7名)
増田ひろよ(自主滞在)
匿名(自主滞在)

アーティスト・イン・レジデンスプログラム実施イベント

実施日	内容	参加作家、ゲスト等	会場	来場者(視聴者、作家、スタッフ含む)
7月28日-30日	アーティスト・イン・レジデンス ショートターム①活動報告会	参加:喜多村徹雄、小鷹拓郎、三本木歆、鈴木光	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)、葛尾村復興 交流館あぜりあ 蔵、葛 尾村ゲートボール場	159
7月29日	アーティストトーク①	参加:喜多村徹雄、小鷹拓郎、三本木歆、鈴木光 ゲスト:日沼禎子	葛尾村復興交流館あぜりあ 交流スペース1	20(18)
7月28日、30日	アーティスト小鷹拓郎 トークイベント	参加:小鷹拓郎	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)	22
8月5日-17日	都内PR展示「遠き山に日は 落ちる」	参加:赤坂有芽、石川洋樹、太田祐司、尾角典子、山口諒、山田悠	渋谷ヒカリエ 8階、8/ CUBE 1,2,3	2794
9月30日-10月9日	アーティスト・イン・レジデンス ロングターム活動報告会	参加:阿部浩之、榎本浩子、工藤将亮、杉浦藍	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)	86
10月7日	ロングタームアーティストトーク	参加:阿部浩之、榎本浩子、杉浦藍	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)音楽室	11
11月17日	アーティストトーク	参加:大槻唯我、カルティカ・メノン、村上郁、 ファシリテーター:林暁甫	大熊インキュベーション センター	16

11月24日 -11月26日	ショートターム②活動報告会	参加:大槻唯我、カル ティカ・メノン、村上郁	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)、葛尾村復興 交流館あぜりあ	60
11月25日	アーティストトーク②	参加:大槻唯我、カル ティカ・メノン、村上郁	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)、葛尾村復興 交流館あぜりあ	28(10)
11月10日 -26日	カルチャイ会	実施:カルティカメノン	葛尾村復興交流館あぜ りあ	150
11月19日、 11月22日 -28日	葛尾「サンカク」折り紙 ワークショップ	実施:村上郁	葛尾村復興交流館あぜ りあ	45
合計				3419

その他イベント

11月18日 -1月21日	Katsurao Collective 2023 活 動報告展	喜多村徹雄、杉浦藍、 榎本浩子、工藤将亮、 山田悠	葛尾村復興交流館あ ぜりあ	4778
1月27日-3 月末	Katsurao Collective 2023 活 動報告展 Vol2	太田祐司、石川洋樹、 尾角典子、山田悠	葛尾村復興交流館あ ぜりあ	2111 (3月14日時点)
2月17日	佐賀大学滞在トークイベント	柳健司、土屋貴哉、阿 部浩之	かつら企画室	5(6)
2月27日	佐賀大学滞在活動報告	阿部浩之	葛尾村立葛尾中学校 (休校中)3階美術室	7
合計				6907

(2)アーティスト・クリエイター等の活動を支援する体制整備について

<ul style="list-style-type: none"> ・イベント来場者数:22年度:67名→23年度:816人 ・参加講師:8名 ・実施回数:15回

・かつらお企画室事業では、地域資源をワークショップを通じて形にできるアーティスト・クリエイターを地域に呼び込み、地域でのイベントを実施した。

かつらお企画室実施ワークショップおよび実施イベント一覧

実施日	内容	講師	会場	参加者(視聴者)
4月28日	「タッセル作りWS」 ふたば未来学園生徒18名が来村、学校の見学とタッセル作りワークショップ	大山里奈	かつらお企画室	22
4月29日、30日	「せせらぎ荘くつ箱おめかし大作戦！くつ箱ロッカーキーホルダーづくり」	大内梨沙	せせらぎ荘	62
7月8日、9日、15日、16日	「つながって、模様になる、景色になる。」	井上康子	せせらぎ荘	51
8月5日	「葛尾村日記をつくろう」	岡崎みゆき	せせらぎ荘	13
8月6日	「糸を使った尾っぽ作り」	岡崎みゆき	せせらぎ荘	20
11月12日	「地元の羊の毛を洗おう！つむごう！つくろう！」	吉田麻子	かつらお企画室	43
11月26日	「糸を編もう、場所を編もう」	関美来	かつらお企画室	21
12月3日	「葛尾村の稲で縄もじりをして正月飾りを作ろう」	遠藤英徳	かつらお企画室	18
1月21日	「突破する！搬入彫刻」	西岳拓貴	かつらお企画室	10
合計				260

増田拓史「ここにつどう」ワークショップ

7月29日	「ここにつどう」 at 下葛尾	増田拓史	下葛尾集会場	5
8月19日	「ここにつどう」 at 落合	増田拓史	あぜりあ	40
9月9日	「ここにつどう」 at 野川	増田拓史	野川集会場	14
11月3日	「ここにつどう」 at 感謝祭	増田拓史	みどり荘	?
11月25日	「ここにつどう」 at 巡業	増田拓史	かつらお企画室、あぜりあ、 せせらぎ荘	50
合計				109

出張ワークショップ

12月16・ 17	ニット工場の残糸を使ってタッセル を作ろう	大内梨沙	茨城県牛久市牛久シャ トー	47
12月23日	葛尾村の羊の毛を洗おう！つむご う！つくろう！	吉田麻子	東京神楽坂	38
合計				85

関連イベント

5月	葛尾村100周年記念 能舞台鏡板制作「みんなの手形で松を 描こう」		村内	330
5月17日	葛尾村成100周年記念式典、「みんなの手形で松を描こう」葛尾 村役場にて手形のワークショップを実施		葛尾村役場	32
合計				362

2023年かつらお企画室の様子



(3)活動拠点整備について

・コワーキングスペース利用者 22年度:117人→23年度累計(3月15日時点):464人
・かつらお企画室利用者数(イベントなどでの利用)→23年度(3月15日時点):181人
・スタジオ利用アーティスト→23年度(3月15日時点):9名

・移住者やアーティスト・クリエイターの受け入れのための活動拠点を整備し、利用者の増加と受け入れに努めた。

・作家の滞在のない時期であっても、地域への短期滞在を希望する者については、制作スタジオ、かつらお企画の利用を促すことで、地域への滞在者の受け入れを行った。

・コワーキングスペース(図書コーナー)、テレワークスペース、アーカイフ `スペースを整備した。

コワーキングスペース利用者数(単位:人)

4月	22
7月	8
8月	188
9月	51
10月	92
11月	9
12月	3
1月	4
2月	56
3月	31
計(3月15日時点)	<u>464</u>

かつらお企画室利用者数(イベントなどでの利用)(単位:人)

4月	14
8月	51
9月	2
10月	1
11月	24

12月	20
1月	47
2月	22
3月	0
計(3月15日時点)	<u>181</u>

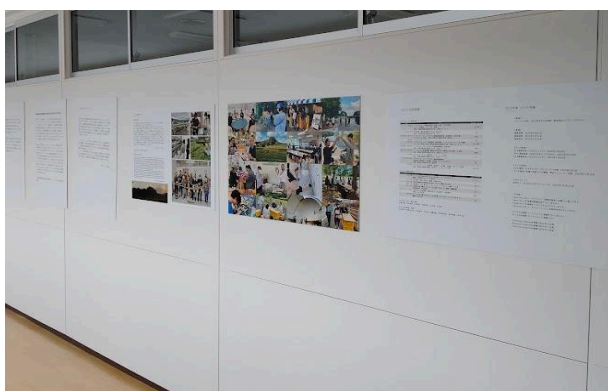
※ワークショップ実施とは別に集計

スタジオ利用したアーティスト

尾角典子
太田裕司
山田悠
工藤将亮
石川洋樹
Yoriko
増田ひろよ(自主滞在)
ピアニスト(教育委員会紹介)(自主滞在)
合計(3月15日時点):9名

※AIRプログラムで滞在補助した者は除外を集計

各スペースの様子(上段コワーキングスペース、下段アーカイブルーム)



(4) 事業の周知、広報活動について

- ・Facebookのリーチ数、22年度：14111件→23年度：35032件
 - ・Facebookのインプレッション数、42692件
 - ・インスタグラムリーチ数、22年度：4020件→23年度：16730件
 - ・X(Twitter)は23年10月より開始、インプレッション数は：24986件
 - ・チラシ配布数、22年度：4253件(通年)→23年度：10249件
- ※全て2024年3月10日時点での値

【SNS発信について】

・村及び本事業を村外に周知するためのチラシやパンフレット等を作成し、配布した。本事業専用のSNSを運営し、記事の作成、投稿を行った。

【報告書冊子の作成について】

・報告書冊子を作成し広報へ活用した。デザイン力の高い冊子を作成し、アーティスト・クリエイター並びに、地域活動に興味のある移住候補者への求心力を高めるため、引き続き活用していくこととしたい。

2023年度SNS発信の実績(2024年3月10日時点)

	Facebook						Instagram						X				
	新規フォロワー数	投稿数	インプレッション	リーチ	エンゲージメント	エンゲージメント率(%)	新規フォロワー数	投稿数	インプレッション	リーチ	エンゲージメント	エンゲージメント率(%)	新規フォロワー数	投稿数	インプレッション	エンゲージメント	エンゲージメント率(%)
2023年4月	0	9	1454	1165	245	17	11	6	1079	778	150	14	投稿なし				
2023年5月	0	8	1345	1105	337	25	11	6	1209	909	183	15					
2023年6月	3	7	1267	1082	317	25	8	6	1252	917	170	14					
2023年7月	4	13	3795	2782	511	13	21	6	1249	948	154	12					
2023年8月	3	8	4326	3472	816	19	29	8	1922	1415	246	13					
2023年9月	1	5	2756	2211	659	24	9	4	802	567	97	12					
2023年10月	14	9	5388	4242	1244	23	41	9	2174	1517	304	14					
2023年11月	11	13	7434	6281	1529	21	29	16	3499	2873	470	13	5	20	5651	47	1
2023年12月	4	13	3819	3248	664	17	10	12	2017	1618	293	15	3	15	4060	110	3
2024年1月	6	12	2307	1890	292	13	20	12	3351	2947	673	20	115	13	3557	155	4
2024年2月	19	11	8724	7477	1261	14	28	11	2634	2053	280	11	5	16	5602	143	3
2024年3月	0	1	77	77	8	10	8	1	234	188	34	15	1	1	50	1	2
合計	65	109	42692	35032	7883	18	225	97	21422	16730	3054	14	145	82	24986	656	3

※各用語について

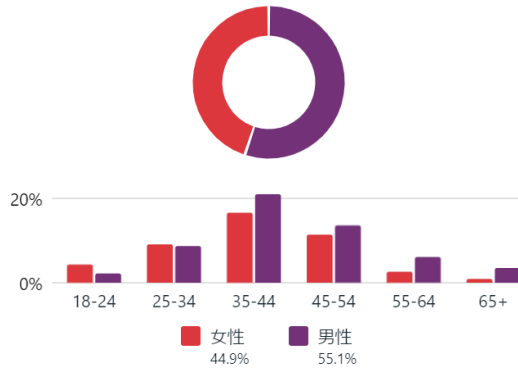
- 新規フォロワー数：新規でページをお気に入り登録した人の数
- インプレッション：投稿の延べ表示数
- リーチ：投稿の推定表示人数
- エンゲージメント：実際にクリックなどのアクションにつながった件数
- エンゲージメント率：インプレッションに対するエンゲージメントの割合

・フォロワー内訳

Facebookでのフォロワー ①

241

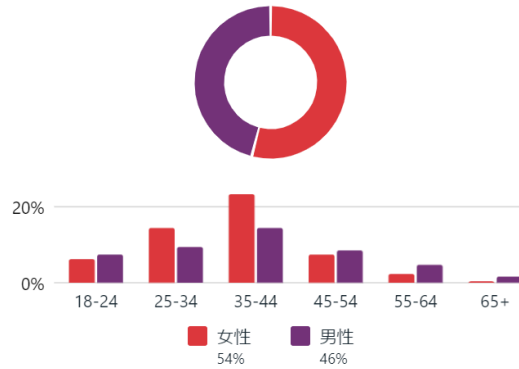
性別・年齢 ①



Instagramフォロワー ①

362

性別・年齢 ①



・FBの投稿の様子

Katsurao Collective
 作成者: 阪本 健吾 · 19時間 · 🌐

【かつらお企画室】
 今年もこの季節が来ましたね～～！！わらで正月飾りをみんな作りましょう！
 葛尾村の縄もじりの達人たちが、楽しく優しく教えてくださいませよ～～！！

「葛尾村の稲で正月飾りを作ろう」
 【日時】12月3日（日）9:00-12:00
 【参加費】300円
 【講師】遠藤英徳、葛尾村民の方々
 【内容】葛尾村ではかつて、冬の仕事として人々が寄り合って藁もじり、紐や色々な生活の道具を作っていました。葛尾村の藁を使い縄もじりを体験し、正月飾りのしめ縄を作ります。
 【参加者】どなたでも（小学校3年生以下のお子様は保護者同伴をお願いします）
 【持ち物】汚れても良い格好
 【参加方法】事前予約制
 【申込締切日】12月2日（金）17:00 まで 申し込み*HPよりお申し込みをお願いします。
<http://katsurao-collective.com/katsurao-workshop>

#葛尾村 #katsuraocollective #fukushima #福島県 #双葉郡 #地域アート #現代アート #contemporaryart #かつらお企画室 #workshop #ワークショップ #縄もじり #藁

2023年度 チラシ配布数(件)

4月	1256
5月	721
6月	942
7月	380
8月	2465
9月	なし
10月	240
11月	2980
12月	128
1月	210
2月	82
3月	855
累計	10269

参考画像: イベントチラシ

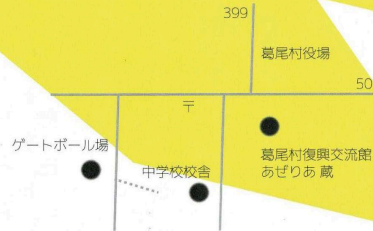


Katsurao AIR

2023. 7. 28 Fri. 29 Sat. 30 Sun.
10:00-16:00

アーティストによる葛尾滞在30日間の活動報告

小鷹 拓郎 KOTAKA Takuro
喜多村 徹雄 KITAMURA Tetsuo
三本木 歓 SANBONGI Kan
鈴木 光 SUZUKI Hikaru



主催 葛尾村 企画運営 Katsurao Collective (一般社団法人葛尾創造舎)
本事業は葛尾村より「令和5年度 葛尾村アーティスト驻村・滞在促進事業」を一般社団法人葛尾創造舎が委託されています。

Katsurao AIR

Artist in Residence Programs

Katsurao AIR (カツラオ エア) は、国内外のアーティストやクリエイターなどが葛尾村に滞在し活動するプログラムです。

活動の最後には、報告会を行います。アーティストがこの地域にて、どのような活動をしたのかを、見たり、聞いたり、体験することができます。
冬の始まりの葛尾村の景色とともに是非お楽しみください。



大儀 唯我 OHTSUKI Yuigo

東京を拠点に国内外で制作活動を行う。被写体と土地の詳細なリサーチに基づき、光と音、風上、場所をテーマとする写真作品制作を行う。第13回写真「WALL」奨励賞 受賞 (2015)。主な展覧会に、「物かすの頂」(個展、ニコンサロン新館/大阪、2015)、「風景」のつくりかた」(巨野区美術館市民ギャラリー、2022) など。2023 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程先端芸術表現専攻修了

カルティカ・メノン Kartika Menon

2020年から「当り前、記憶、トラウマ」をキーワードに作品制作や表現を始める。フィールドワークの手法として、オートエスノグラフィの探究手法を用いて、自分自身が土地の場所、人、物事などの記憶を記録し、これらの記録やデータをもとに、切り絵、紙、光や影を使ったインスタレーション作品や映像作品を制作する。今まで、愛知県、京都府、岐阜県、福井県で展示を行ってきた。2022 情報科学芸術大学院大学 IAMAS メディアアート実習 修了

村上 都 MURAKAMI Kaoru

日常の中にあり、互いに押しあう不安定なものとしての海と空と陸。たとえば距離、思い込み、意味の多様性、翻訳の不可能性などから着想を得て制作をしている。近年は記憶を象徴するものからその色合いを探っている。光る電線の中に正統派の風景と絵巻を置いた人のメッセージを浮かび上がらせて、他者の記憶の取られごと、それを眺める人の関係性を探る《電線群内》など、作品に力ずきの要素を取り入れたものや、照明にまつわるものを用いた作品を制作している。2008 Central Saint Martins College of Art and Design, BA Fine Art 卒業

Katsurao AIR とは

国内外のアーティストが一定期間葛尾村に滞在し活動を行うプログラムです。アーティストやクリエイターなどによる活動を通して、地域資源の発掘や発信、彼らの活動や伝播からの広がりが、交流人口の増加、人的ネットワークの構築などを生じさせることを目的としています。

お問い合わせ info@katsurao-collective.com
WEB http://katsurao-collective.com
Katsurao Collective 事務局



活動報告会

2023. 11. 24 Fri - 11. 26 Sun
OPEN 10:00-16:00
会場 葛尾村立葛尾中学校 休校中
入場 無料

11:25 ~ 12:00 アーティストと学生
開催予定です。詳細についてはHP
やSNSにてご確認ください。

本事業は葛尾村より「令和5年度 葛尾村アーティスト驻村・滞在促進事業」を委託されています。
主催 葛尾村 企画運営 Katsurao Collective (一般社団法人葛尾創造舎)

Katsurao AIR

Long Term 活動報告会



阿部 浩之
榎本 浩子
工藤 将亮
杉浦 藍
ABE Hiroyuki
ENOMOTO Hiroko
KUDO Masaaki
SUGIURA Ai



Katsurao AIR について

本事業は、国内外から訪れるアーティストらが、葛尾村に滞在し、村や地域の人々との交流を通して、さまざまな出会いとヒントを体験し、創作活動をおこなうプログラムです。

活動報告会では、アーティストが活動の拠点にしている、葛尾村立葛尾中学校 校舎にて、リサーチや制作などの活動から生まれた作品や資料などを公開いたします。どうぞご覧ください。

会期中のイベント日程についてはウェブサイトよりご確認ください。
http://katsurao-collective.com

http://katsurao-collective.com



2023.9.30-10.9

OPEN 10:00 - 16:00
会場 葛尾村立中学校 休校中



福島
葛尾
エア
2023

Katsurao AIR
Artist in Residence Programs

かつらお 週末アート&ビアフェスタ

食後の秋、新しい週末の前の23日ほど、阿波国高松のまなひからかつらお村でおいしいビールを味わう特別な週末をお過ごしください。文化芸術、アート、食文化の魅力を最大限に引き出すイベントです！

11/25 SUN **11/26 SUN**

10:00-16:00
Katsurao AIR オープンスタジオ
 11月1日と2日に開催されるアート制作ワークショップ。今年、夏に行われた「アートフェスタ」の制作過程を公開いたします。アーティストと市民が一緒に制作し、アートフェスタの作品を制作しました。アートフェスタの制作過程を公開いたします。アーティストと市民が一緒に制作し、アートフェスタの作品を制作しました。

10:00-17:00
Katsurao Collective 2023 活動報告展
 本年度の活動報告展を開催いたします。今年、夏に行われた「アートフェスタ」の制作過程を公開いたします。アーティストと市民が一緒に制作し、アートフェスタの作品を制作しました。

12:00-15:00
「ここどろう」 新卒者のサーバー
 アーティストと地元企業による、地元の人のための「ここどろう」サーバー。地元企業とアーティストが協力して、地元の人々のためにサーバーを提供しています。

15:00
葛尾産でソノゴフェスティバル
 葛尾産の酒と地元企業とのコラボレーション。地元企業とアーティストが協力して、地元の人々のためにフェスティバルを開催しています。

16:00-20:00
SESERAGI AUTUMN BEER x WINE FESTIVAL
 地元のアウトドアビールとローカルワインを中心に、秋の味を楽しむフェスティバル。

10:00-17:00
11/25 SUN **11/26 SUN**



Katsurao Collective 新聞

2023年11月号 (第4号) 発行: Katsurao Collective

Katsurao AIR

2786名来場!
葛尾ヒカリエに
2786名来場!

Katsurao AIR 2023
アーティストが今年も滞在!!

11月1日と2日に開催された「Katsurao AIR オープンスタジオ」は、今年も大盛況で、2786名が来場しました。アーティストと市民が一緒に制作し、アートフェスタの作品を制作しました。

おげりあトレーラーハウス
アートな村の新しい「顔」に!

おげりあトレーラーハウスは、アートな村の新しい「顔」になりました。アーティストと市民が一緒に制作し、アートフェスタの作品を制作しました。

スタッフ紹介

山日 貴子 (デザイナー)

山日 貴子 (デザイナー)

編集後記

今回のイベントは、アーティストと市民が協力して開催されました。アーティストと市民が協力して開催されました。

Katsurao Collective 新聞

5号 2024年3月号発行 Katsurao Collective

おげりあトレーラーハウス

アートな村の新しい「顔」に!

おげりあトレーラーハウスは、アートな村の新しい「顔」になりました。アーティストと市民が協力して開催されました。

Katsurao Collective 2023 活動報告展 vol.2 開催中!

活動報告展 vol.2 が開催中です。アーティストと市民が協力して開催されました。

編集後記

今回のイベントは、アーティストと市民が協力して開催されました。アーティストと市民が協力して開催されました。

かつらお企業堂 羊毛、ニット、産...

村に響く素材で楽しむあれこれ

羊毛、ニット、産物を使った様々な商品が、村に響く素材で楽しむことができます。羊毛、ニット、産物を使った様々な商品が、村に響く素材で楽しむことができます。

スタッフ紹介

山日 貴子 (デザイナー)

山日 貴子 (デザイナー)

編集後記

今回のイベントは、アーティストと市民が協力して開催されました。アーティストと市民が協力して開催されました。

(5) 移住・定住に向けた支援について

視察、来訪、短期滞在者の数 62名

- ・新潟、青森、仙台、東京、京都などから多くの個人、団体からの現地訪問、視察があった
- ・アート・クリエイター関係の機関からの訪問や、国会議員の視察も増えた。22年度はオンラインでの問い合わせが多い状況であったが、23年度は直接現地に来村を促すことができている状況である。
- ・来場者にはアンケートを取得し、現状の移住者のニーズ把握に努めた。来場者からの感触は概ね良好である。一方で移住できない理由には交通の不便さを挙げる声が多く、本事業だけでの対応が困難な面もあるため、今後の課題としていきたい。

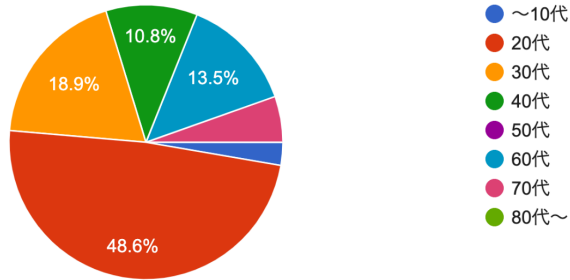
視察、来訪、短期滞在者の数

	人数(単位:人)	来訪先
6月	24	東京、茨城など (グラスゴー大学視察17名含む)
7月	4	東京
8月	10	東京、茨城
10月	1	未回答
11月	6	東京、仙台
12月	0	なし
1月	10	東京、群馬
2月	22	東京、千葉
3月	2	東京
合計	79	

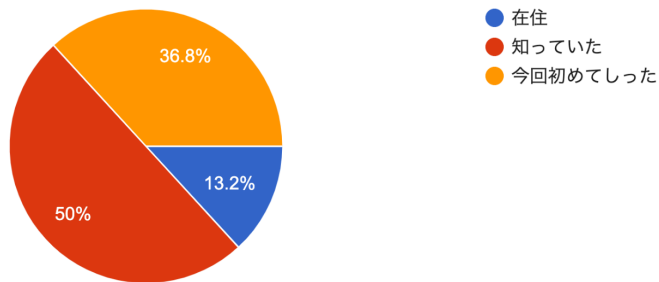
※上記は滞在アーティストなどを除いた数

村に興味を持ったアーティスト、来村者等に対して行ったアンケートの結果
 (集計時期:2023年4月~2024年3月)

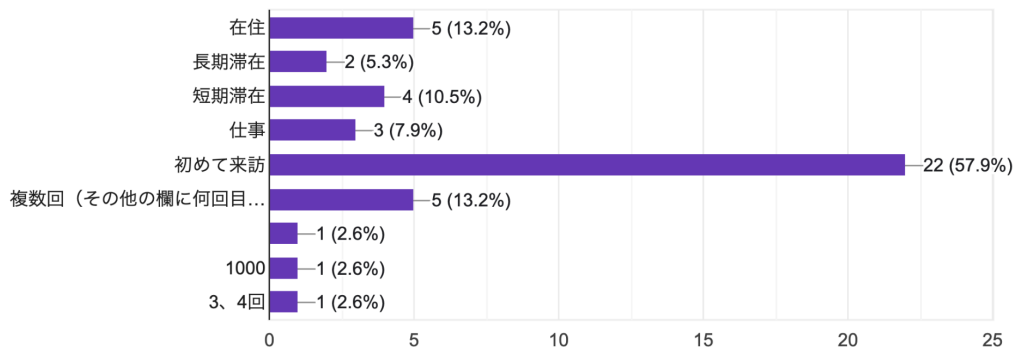
年齢
 37件の回答



葛尾村との関わり
 38件の回答

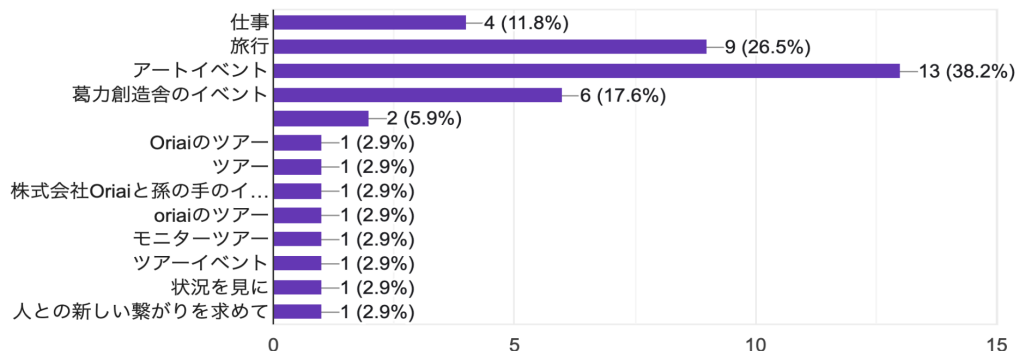


【1】葛尾村へはどのような形で来村されましたか？ (複数回答可)
 38件の回答



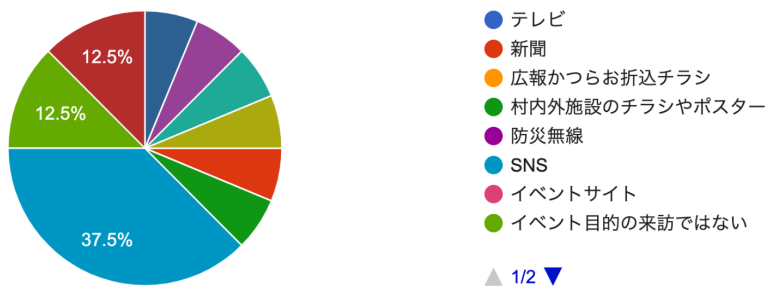
【2】葛尾村へ何を目的に来訪されましたか？（複数回答可）

34件の回答



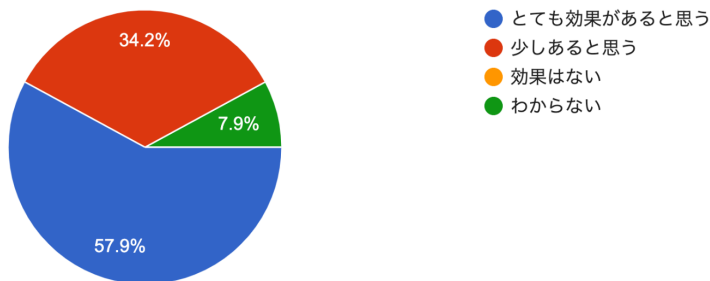
【3】葛尾村でのイベントを何で知りましたか？

16件の回答



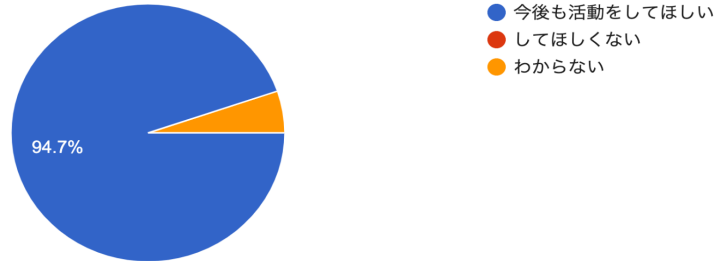
【4】葛尾村でのアーティストの活動は、村にとって良い効果があると思いますか？

38件の回答



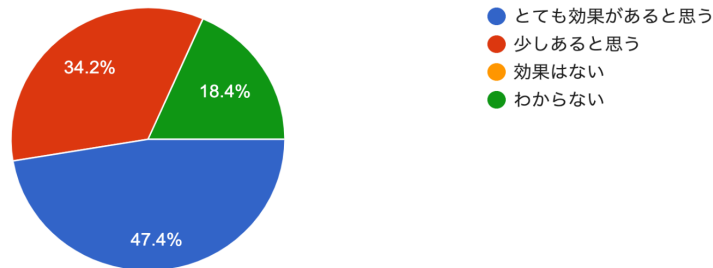
【5】今後もアーティストに滞在して活動をして欲しいですか？

38件の回答



【6】アーティストの活動は、移住者の増加に対して良い効果があると思いますか？

38件の回答



コメント(自由記述)

若いアーティストさんの発想や感性が素晴らしく、心がおどりました。葛尾村に新しい動きが生まれればいいなと思います。

会津若松出身ですが、初めて葛尾村に来ました。人口400人の村で、外から来た人たちが何かをするのは、地元の人との絶え間ない調整の上でしか成り立たないので、根気がいる活動だと思います。5年、10年とやってみて何かが根づく活動をしていると思いますので、地元にはアート、アート言わずに理解を得ていきつつ、県内外のアートやまちづくりに関心のある人々の目的地としていくことが大切のように思いました。丁寧にご案内いただきましてありがとうございました。また、訪ねることができればと思います。

午前中に見学させていただいた者です。丁寧にご案内いただいたおかげで、アーティストの方からも話を伺うことができ、作品の背景を知ることができてとてもよかったです。

すばらしい企画ですね。続けて発信して下さい。

普段できないことを経験できたので、非常に楽しめた

羊毛について知らないことだらけで、すごく勉強になりました。とても楽しかったです。また来ます！

糸を紡ぐ経験はなかったので楽しかったです

牧場とかで羊を撫でたことはあっても、羊の毛を洗うのは初めてで貴重で楽しく体験させていただきました。糸を紡ぐ仕組みや、きれいな繊維になるまでの数多くの工程を知り、動物から糸を作ることの大変さを少し体験できた気がします。とても楽しかったです！ありがとうございました！

アートが思っていたより楽しかったし、今回できて本当に良かったと感じていることの1つです！このような活動をしている事はまったくしなかったのも、もっと広く広がればいいなと感じました。

羊から糸をつくるのは初めての経験でとても勉強になり、楽しかったです。使われていない校舎を有効活用されているところも素敵だなと思いました。東京のみならず他の地域でもワークショップぜひ開いていただきたいです。

初めて糸を紡いだのですが、とても楽しかったです。

素敵な取り組みを知ることができ良かったです。

寒かったけど良かった

若い芸術家の感性はすばらしいと思います

作品や活動したアーティストの話により、村について理解を深めることができました。

様々な視点を取り入れる事は新しい風を吹き込む良い機会となりうると思います。

縄もじり、ハマりますね 

また来年も参加したいです！

縄もじりは、初心者には意外と難しかったです！実際に体験してみて、手先が暖まって、だから冬にやるのだなと分かりました。また、お正月飾り以外の用途なども聞いて楽しかったです。

良かったです

とにかく楽しかったです！初対面の1人たちと一体感が生まれました。アートでもありながらスポーツのような楽しさがありました。

正直なところ、アートというものが地域の移住・定住促進に対しどれだけの効力を発揮するのか今はまだ理解が追いついていません。しかし人それぞれ思いの強さは大小様々なれど葛尾村に「何か」を還元しようという心意気を感じました。私は首都圏在住者ですが、自分のテリトリーの中で葛尾や周辺地域へ良い影響を伝播できる「何か」を模索し微力ながらお手伝いが出来たら、とそう考えています。

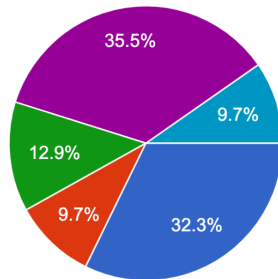
①アートとあるので、舞台表現や音楽表現などがあると良いと思いました ②作家さんとお話する機会が欲しかったです(いついつ在廊という表現でも良いかと) ③あぜりあに入った時に何の展示かわからなかった。かつらおコレクティブとは？とか、今回の発表のテーマなんかを掲示してあると良いかと 職員さんが日中業務で忙しいのは理解できるが、展示の案内や説明してくれる人がいると会話が出来て良い 関係者内の打合せを行っている場合もあるかとは思いますが、知らない人が来場されたら、まずお声かけをして、ぜひ素晴らしい葛尾村のファンを増やして関係人口を築いてください。

どの作家さんも作品もハイスペックで凄いものを作ったなあと思います。一度に複数作品の発表のため、何人か来て話始めると音が聞きにくく、できれば、他の映像作品も合わせた映画会などあったらいいなあ~と思います。もっとPRしてせつかくの素晴らしい作品を日本中のみなさんに。見てもらえたらと思います。芸術とは生活の中から浮き上がってきた文化だと思うので、広い場所で、住んでる村民のみなさんも協力してくれる葛尾村でのこの取り組みはとても意義があることだと思います。これからも葛尾村の魅力をより良く発信してください。

<村外に住んでいる方へ限定した質問>

【1】 現在のお住まいから他エリアへのお引越しを検討したことはありますか？

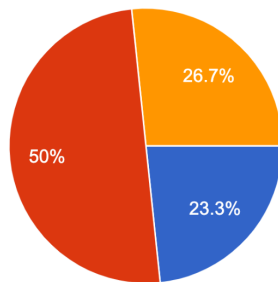
31件の回答



- はい
- 考えたことはないが気にはなる
- 考えてはいるがまだ先
- わからない
- いいえ
- 考えて入るがまだ先

【3】 葛尾村に住みたいと思いますか？

30件の回答



- はい
- わからない
- いいえ

【4】住みたいと思う、または住みたくないと思う理由をお聞かせください(自由記述)

夫婦の仕事と、子育ての状況として、現在の環境を変えるのは難しい。

行ったことがあまりないから

まだ一回しか来たことないから

まだ葛尾村のことについて詳しく知らないため

いずれは移住地の一つとして考えるかもしれない

豊かな自然が美しいから

立地

自然豊かな地域は好きですが、普段の生活の息抜きに来るのがちょうどいいと感じてしまっているため。

今は学生で住まいの変更を検討できないこと、また会社の勤務において確定できないため。

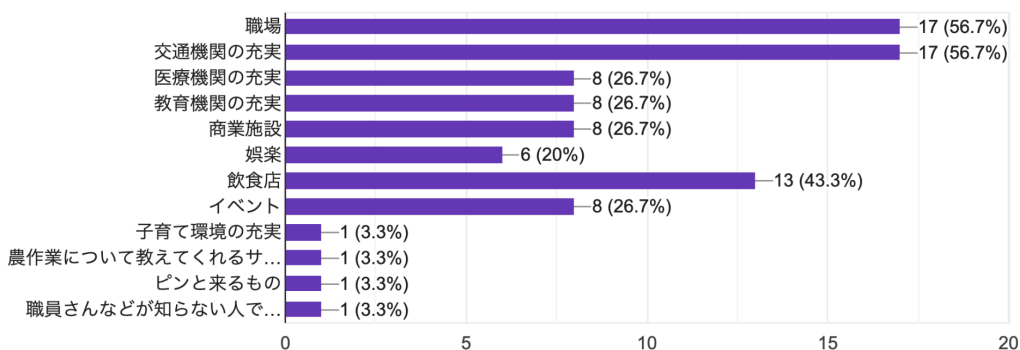
人との関わりにやって居場所を感じる事が出来そうなものの、寒さや寂しさで日々の暮らしが辛くなりそうだと考えました。

自然がたくさんあることと、楽しそうなところ。意外と若い人もいるところ

勤務先から遠いから
 仕事があるため
 双葉郡富岡町にうちある
 実家がいわきにあるため
 始めて来たばかりなので。
 新潟で活動しているから
 現在の状況が分からない。
 アートイベントが多く人がとても親切
 アートの催しがある
 訪れる機会がなかった
 人との距離が近くて楽しそう

【5】葛尾村に何があったら住みたいな、と思いますか？（優先度の高いものから3つまで）

30件の回答



【6】葛

尾村に住む、となったら、何がネックになりますか？（自由記述）

アクセス
 寒さ
 交通の便
 勤務先から遠い
 交通手段
 交通機関
 交通の利便性
 商業施設の少なさ
 住む場所があるかどうか
 家からスーパーやコンビニまでの距離。
 地元や現居住地からのアクセス(新幹線などが無く、出発地からすべて車で行くにはすこし距離がある。)
 交通アクセス、仕事が少ない

車の免許をまだ取っていない

通勤

仕事

医療

今の仕事

知っている人が居ない

通勤、仕事

住居

交通

交通インフラの不整備

役場職員の中で葛尾村の多くの住人が少ないこと(役場の人なのに葛尾村に住まないのは、何か理由があって住みにくいからだ考えるため)

【7】葛尾村に住んでお仕事をするとすると、どのような職業に就きたいですか(自由記述)

わからない

農業

ゲストハウス

学校の先生

何かを作ったり、提案したりするような仕事

事務

村の魅力を外部の人々へ伝える仕事。

地方創生

キャンプ場の管理人

会社員

公務員

地域活性化に繋がる事業に関わりたい

起業

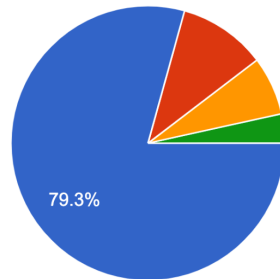
教育関係

アーティスト

子育て、見守りに関する仕事

【8】葛尾村にコワーキングスペース（共有型のオ...スペース）があったら活用したいと思いますか？

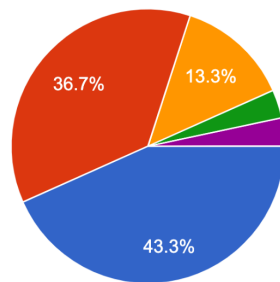
29 件の回答



- はい
- わからない
- いいえ
- 宿泊先もセットであれば

【9】葛尾村にレンタルスタジオがあったら活用したいと思いますか？

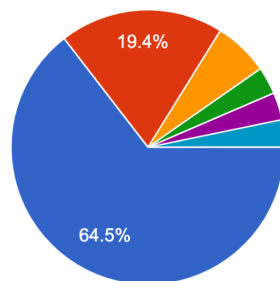
30 件の回答



- はい
- わからない
- いいえ
- わざわざ葛尾村のスタジオを活用することのメリットや特別な環境があれば
- レンタルスタジオが良く分からない。研修室？

【10】地域でアーティストやクリエイターが活動...と、自分も一緒に活動してみたいと思いますか？

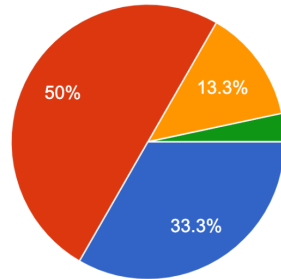
31 件の回答



- はい
- わからない
- いいえ
- 仕事やコラボレーションにつながるのであれば
- 気になるものかどうかによる
- 興味はある

【11】 地域でアーティストやクリエイターが活動していると、自分も移住して来たいと思いますか？

30件の回答



- はい
- わからない
- いいえ
- 地域でアーティストやクリエイターが活用しているから移住という話は急すぎるかと、どちらかというと地域のアーティストやクリエイターを支える環境が地元理解も含めあるかどうかと

【12】その他、ご自由にご記入ください。(自由記述)

移住については、その大変さも含め分かっていない部分が多いのですが、一足飛びに移住とは行かなくても、複数拠点の人々(もと住民も含め)が葛尾村に行くのが楽しい、意味があると思って関わってもらえるような環境整備をしていくことが重要かと思いました。人口減の危機意識の中、悠長なことを言っていられないかもしれませんが...

午前中に見学した者です。活動に興味があるので、今後の活動についてお知らせいただくと嬉しいです。もしボランティアの募集などしていただければ参加したいです。(以下:名前と連絡先を記載)

芸術を呼び込むのはいい考えと思う。

ありがとうございました。葛尾村、応援していますので頑張ってください！

(6) 関係人口リストの作成について

・葛尾村移住・定住支援センターで実施した調査結果も併せて集計し、結果の総合的分析を行いつつ、リスト化(関係人口リスト)し、地域の課題を整理した。

関係人口リスト 集計結果(2024年3月10日時点)

	移住定住支援センター運営業務	アーティスト移住定住促進業務	合計
A 関係人口 ※1	14	174	188
B 葛尾村に一度でも来訪したことのある人数 ※2	34	340	374
C 葛尾村および本事業の取り組みに関心のある人数 ※3	142	546	688

・集計方法: 移住相談、ツアーやオープンスタジオ・ワークショップ等のイベント参加記録、視察やワークスペース利用に関する来訪記録、SNS公式アカウントフォロワーを重複のないように調査・集計した。

※1 関係人口は、本事業の取り組みによって実際に葛尾村に複数回来訪した人数を指す。なお、関東地方でのイベントのみの来訪者は含まない。

※2 Aの人数に、1度のみ葛尾村に来訪した人数を加えたもの

※3 Bの人数に、1度も葛尾村に来訪したことがないが、SNSで「こんにちはかつらお」や「Katsurao Collective」の公式アカウントをフォローしている人数を加えたもの

今後の課題等

移住定住支援センター運営業務では直接的に移住定住を検討している層にアプローチしている一方、アーティスト移住定住促進業務ではアートやクリエイティブ領域のターゲットに広くアプローチしており、両事業を併せて、村内居住人口相当数(463名、2024年2月1日時点)の4割程度にあたる人数を関係人口として獲得することができている。今後、これら獲得した関係人口に対しては、積極的に地域の魅力を訴求し続けることが必要である。

地域に多様な形で関わるよそ者＝関係人口の増加は、今後人口減少が見込まれる当地において目指すべきところであるが、滞在拠点のキャパシティやイベントの規模などの受け皿に応じ、適切かつ丁寧に受入ができる規模で村外在住者の関心を広げていくことが肝心である。

移住定住支援センター運営業務では具体的に地域の暮らしの情報や魅力を、アーティスト移住定住促進業務ではクリエイティブな取り組みができる環境であることを発信し続けることで、新たな関係人口の創出を図り、移住定住につなげていくことが必要である。

5 全体の成果および運営の課題

【事業全体について】

- ・事業計画に則り、2022年度、2023年度は、移住希望者に向けた地域イメージの構築、発信を目的として実施した。
- ・本年度も月に2～3件のペースで、新潟、青森、仙台、東京、京都などから多くの個人、団体からの現地訪問、視察があった。アート・クリエイター関係の機関からの訪問、国会議員の視察など、多くの方に注目されている。
- ・22年度はオンラインでの問い合わせが多い状況であったが、23年度は直接現地に来村させることができています。移住のためのPR事業として、来村のきっかけを作るという目標が達成できつつある状況である。
- ・本年度より、経産省が主体となって12市町村に全国のアーティストの滞在を推奨する動きが生まれており、全国的に認知され始めている。その影響もあり、12市町村で最初期にプログラムを始めた地域として周辺自治体から認知が広がってきている。

課題

- ・事業内容が固定化しつつある。さらなる関係人口の獲得に向け事業の展開を検討していく必要がある。
- ・アーティスト・クリエイターを対象としながら、実際の参加者は現代アート、映像、クラフトアーティストに偏っている現状がある。幅広いクリエイターを受け入れる体制を整備していく必要がある。

【地域との連携について】

- ・アーティストの滞在においては、村民の一部ではあるもの地域に歓迎するムードができつつある状況である。
- ・村内事業者と協力し、地域の素材や魅力を発信する企画を行っている。

課題

- ・協力先が一部に偏ってしまっている状況がある。人口が少ないため、偏りはやむを得ない一方で、改善に向けて策を検討する必要がある。
- ・葛尾村役場や、葛尾村復興交流館あぜりあ・宿泊交流館せせらぎ荘を管理運営する(一社)葛尾むらづくり公社との連携を密にし、企画・イベントの会場利用や広報をよりスムーズに、かつ的確に実施する必要がある。
- ・葛尾村内で本事業とは異なる類似プロジェクトが立ち上がった。連携のうえ、各事業の性質やポジションを明確にした上で発信する必要がある。
- ・男性村民と女性アーティストが交流する際、ハラスメント事案が発生しないように地域内コーディネートを実施する必要がある。

【広報物配布について】

- ・事業に合わせて、AIR通年チラシ1種、AIR活動報告会チラシ3種、ワークショップ開催案内チラシ2種を作成した。チラシは葛尾村内や中通り・浜通りの各施設、東北地方・北関東地域(都内での企画に関しては首都圏)の文化施設等に郵送し配布依頼を行ったほか、村内で開催されたイベントや村外への営業活動時に直接手渡しして、周知・広報に努めた。

【Webサイト、SNS発信について】

- ・週に1度以上の情報発信を行い、いずれのプラットフォーム上でも新規フォロワーを継続的に獲得しており、SNSでの発信は昨年度の倍以上の集計結果となった。継続することで効果を発揮するSNSの特性上、長期的、継続的に発信していくことでコンテンツの発信力が高まっている状況がある。
- ・Facebookは30代～40代、Instagramは20～30代のフォロワーが最も多く、投稿内容が目標となるターゲット層にアプローチできていることが見える。
- ・1月からはSNS発信力強化のため「スキコム」の名称で広報企画を実施している。来場者から聞き取りを行った結果「活動情報の発信だけの広報は興味を失う」という声が多数あり、興味を維持継続させるため

のコンテンツ化を検証するため。テキストプラットフォーム「note」、音声配信プラットフォーム「Spotify」利用し、活動について深く伝える内容発信を試験的に実施している。

課題

- ・村内への発信は定期的に行っているものの、さらなる浸透を図る必要がある。
- ・県内のマスコミ、メディアへもさらなる露出が必要である。

【移住の相談について】

・2024年1月に24年度のAIR参加者募集を実施したところ、6名の採用に対し36名の応募があった(2023年度応募者数14名)。広報活動を通じて葛尾村の認知度が上がっていることがわかる。

課題

- ・移住したいが受け入れはしてもらえるか？という相談を受けた事例があった。移住へのハードルが高い地域であるというイメージが存在することがわかる。
- ・県外からの移住希望者(アーティスト・クリエイター)からは引き続き「廉価な空き家はあるか？」という内容での相談が多い。